

令和3年度 数学科

学年	学習状況の現状分析と課題	指導方法の課題・改善策・補充・発展指導
1学年	<p>①学力調査の結果では全体平均の達成率と比較すると、「知識・技能」を2.7%、「思考・判断・表現」を2.5%上回っている。また、どの領域においても全国平均を5%前後上回っているが、「数の計算」はほぼ全国平均と変わらないため、知識技能問題の正答率がいまひとつである。基礎的な知識は身につけているので、授業や家庭学習を通して、引き続き計算力強化を目指す。</p> <p>②授業では、どのクラスも積極的に取り組み、生徒同士で考え、課題を解決しようとする姿勢も見られる。宿題の提出率も悪くはないが、細かなところで不十分な箇所があり、完璧に課題を仕上げていることもないので、学習へ取り組む丁寧さが今後の課題となる。</p>	<p>①ノートや授業プリントに求め方や考え方をきちんと書くように指導する。また、授業や宿題で演習する際は求め方を書くこと・丸付け・ときなおしを徹底させる。</p> <p>②授業の中で教え合いの時間をとり、生徒同士で考え、意見を出し合い課題を解決するように促す。</p> <p>③授業内容の復習・定着を図るため、こまめに宿題を出し、家庭学習の習慣を付ける。また、単元ごとに小テストを行い、生徒が自分自身に合う学習の仕方を学んだり、学習内容の振り返りするように促す。</p>
2学年	<p>①「思考・判断・表現」の観点では、定期テスト・単元テストでは、正答率50%前後であり、応用力に課題がある。「知識・技能」では、定期テスト・単元テストでは、正答率80%前後であり、基礎的な計算力は身につけている。</p> <p>②全体として、数学の授業へ取り組む姿勢は良いが、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとする生徒は少ない。</p>	<p>①毎授業ごとに家庭学習の課題を出し、次時で確認をすることにより家庭学習の習慣を身につけさせ、応用力をつける。</p> <p>②単元ごとに小テストを行い、学習の振り返りができるようにする。また、長期休業中には学期のまとめの課題を出し、学習内容の定着を図る。</p> <p>③演習の時間では、発展的な問題にもチャレンジさせ、「思考・判断・表現」の観点における正答率が60%を超えるよう指導する。</p> <p>④教え合い活動を取り入れ、理解度を深め、定着を確かなものにする。</p>
3学年	<p>①知識・技能 全国学力・学習状況調査では知識74.9%、技能87.0%であり、東京都68.1%、79.6%(全国65.6%、77.7%)をそれぞれ6.8%、7.4%上回っている。領域別に見ると、「数と式」76.8%と高い数値であるが、「資料の活用」60.3%(東京都54.7%)であり、再度理解を深める時間が必要である。</p> <p>②思考力・判断力・表現力 全国学力・学習状況調査では53.6%であり、東京都44.6%(全国41.1%)を9%上回っている。記述で解答する問題では、5題中3題が無回答率14%(東京都22%以上)を超えているため、思考過程を記述する練習を少し増やしていく必要がある。</p> <p>③主体的に学習に取り組む態度 授業中の取り組みや家庭学習の状況、提出物の内容を見ても、主体的に取り組んでいると判断できる。</p>	<p>①知識・技能 毎授業での家庭学習の提示・確認と、単元テストや小テストを行いながら、継続的に理解を深めさせていく。</p> <p>②思考力・判断力・表現力 「知識・技能」と同様に取り組んでいく。また、授業内や単元内で、思考力を必要とする問題へ取り組む時間を増やしながらか、記述力や表現力を丁寧に見ていく。</p> <p>③主体的に学習に取り組む態度 上記①②を継続的に行う。また、各自でテスト等の振り返りをする際に、理解が不十分と判断した問題に関しては、類似問題を作成し解き直しをさせることで、主体的に学習に取り組むことを進めている。その内容に関しても継続的に取り組んでいく。</p>